

症例 ⑤ 解説

第53回 埼玉県細胞検査士会 鏡検セミナー

症例

患者：30代 女性

検体：自然尿・50ccの血性検体

臨床診断：血尿

臨床経過：特記なし



標本作製：遠心沈渣成分のすり合わせ標本（Pap.染色・MGG染色 各1枚）

病例⑤ 泌尿器

選択肢

1. 炎症性変化
2. 子宮頸部扁平上皮内病変
3. 高異型度尿路上皮癌

事前集計

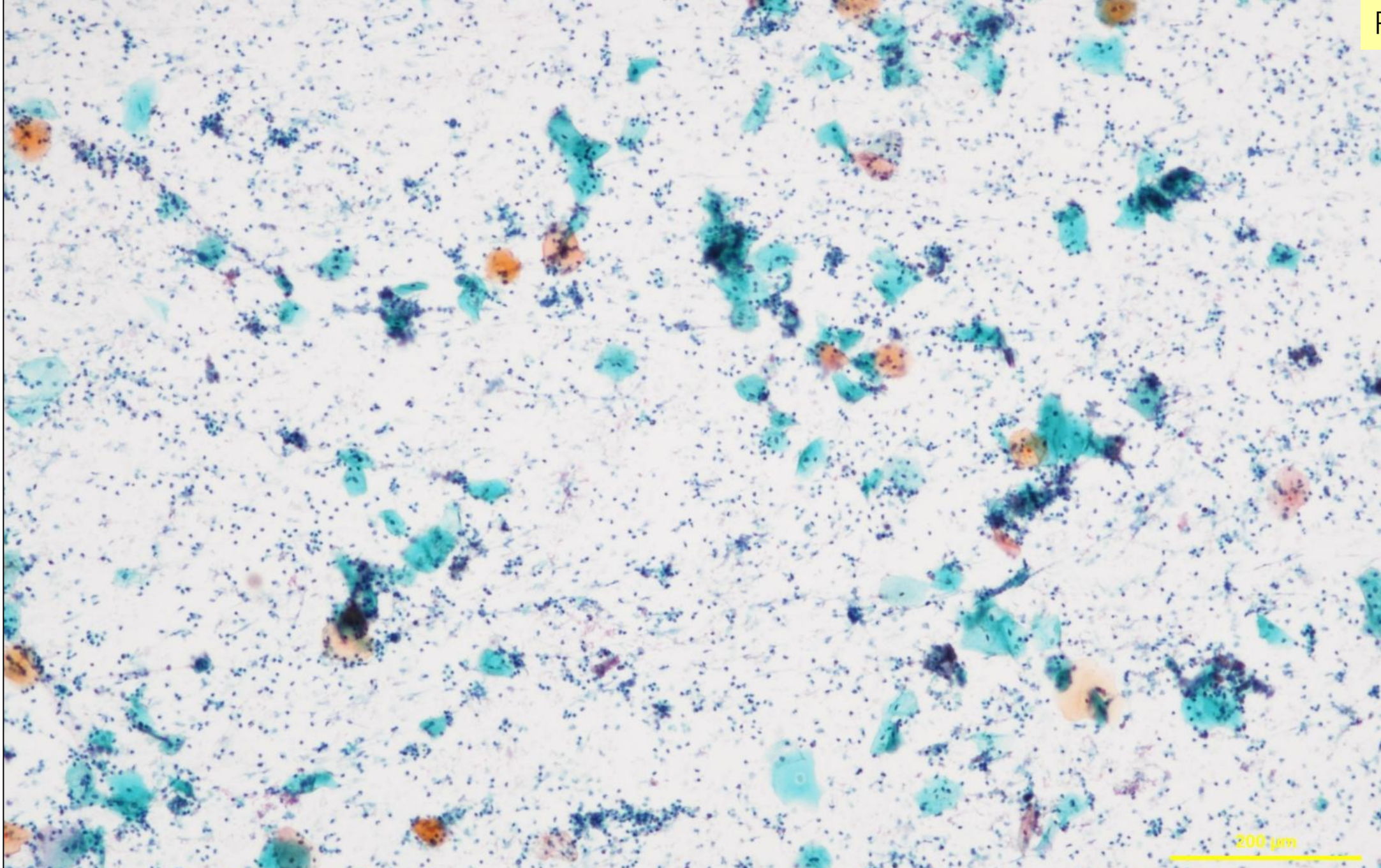
選択肢

- 炎症性変化 2名
- 子宮頸部扁平上皮内病変 17名
- 高異型度尿路上皮癌 2名

当日集計

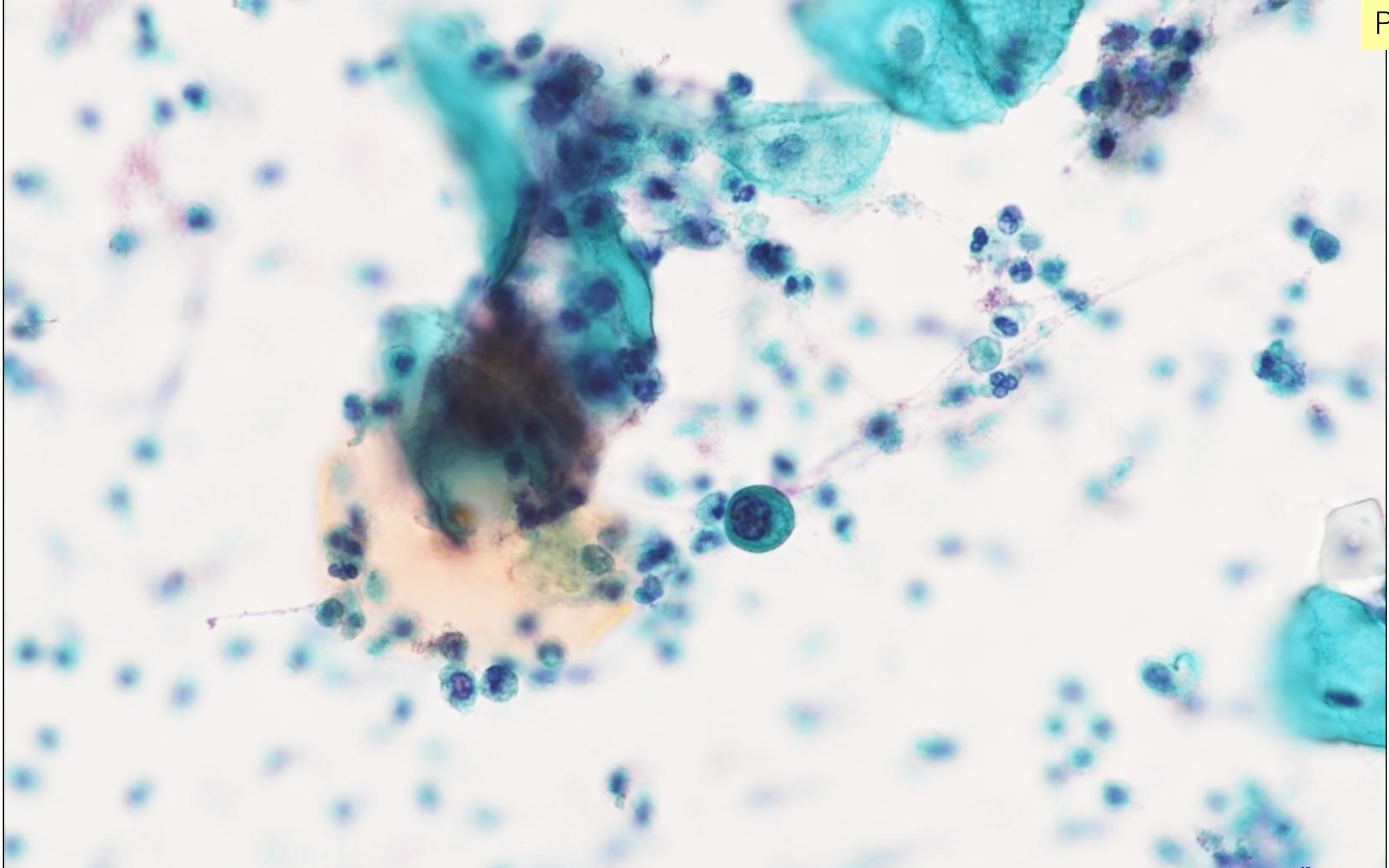
選択肢

- 炎症性変化 4名
- 子宮頸部扁平上皮内病変 29名
- 高異型度尿路上皮癌 1名

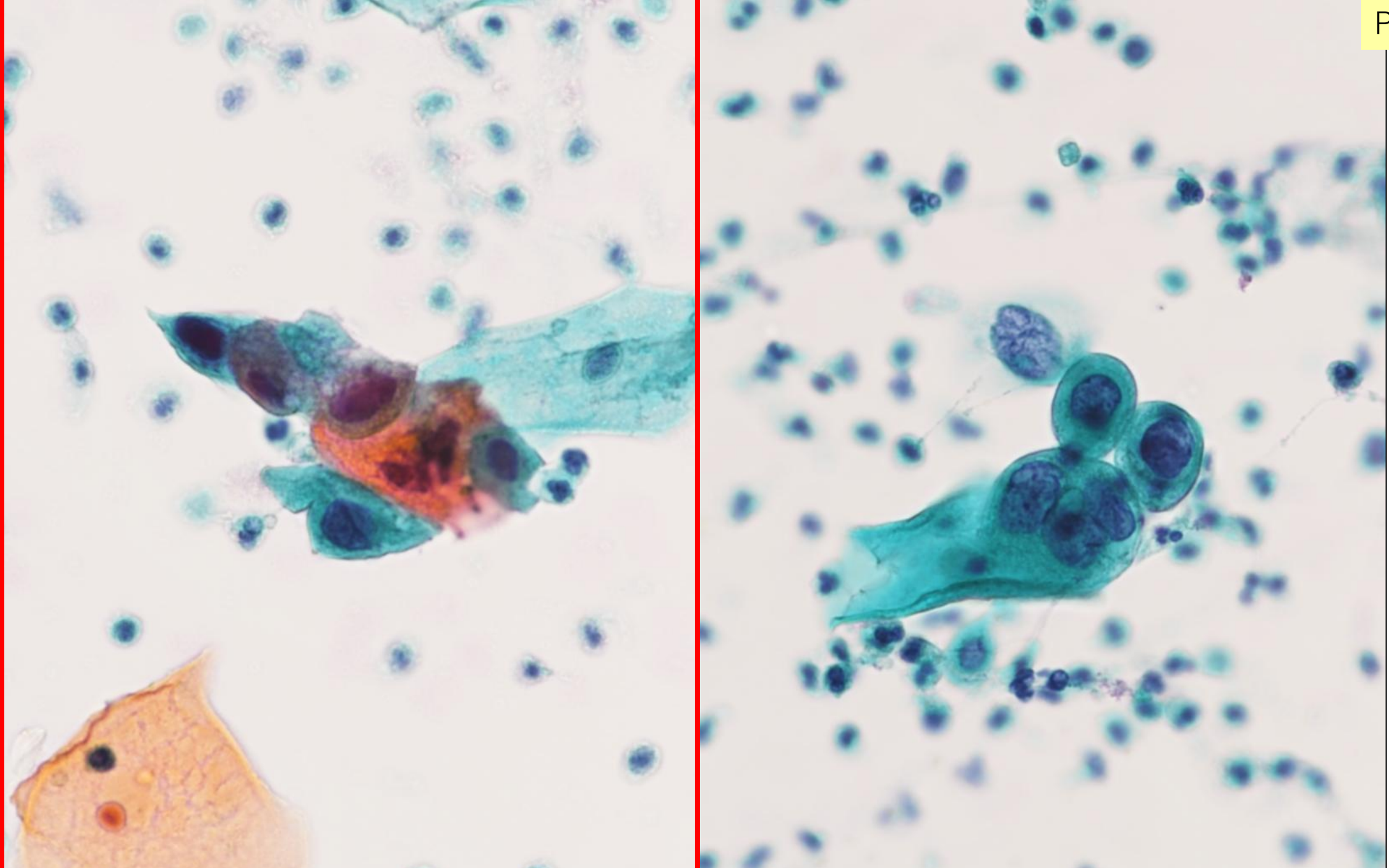


200 μm

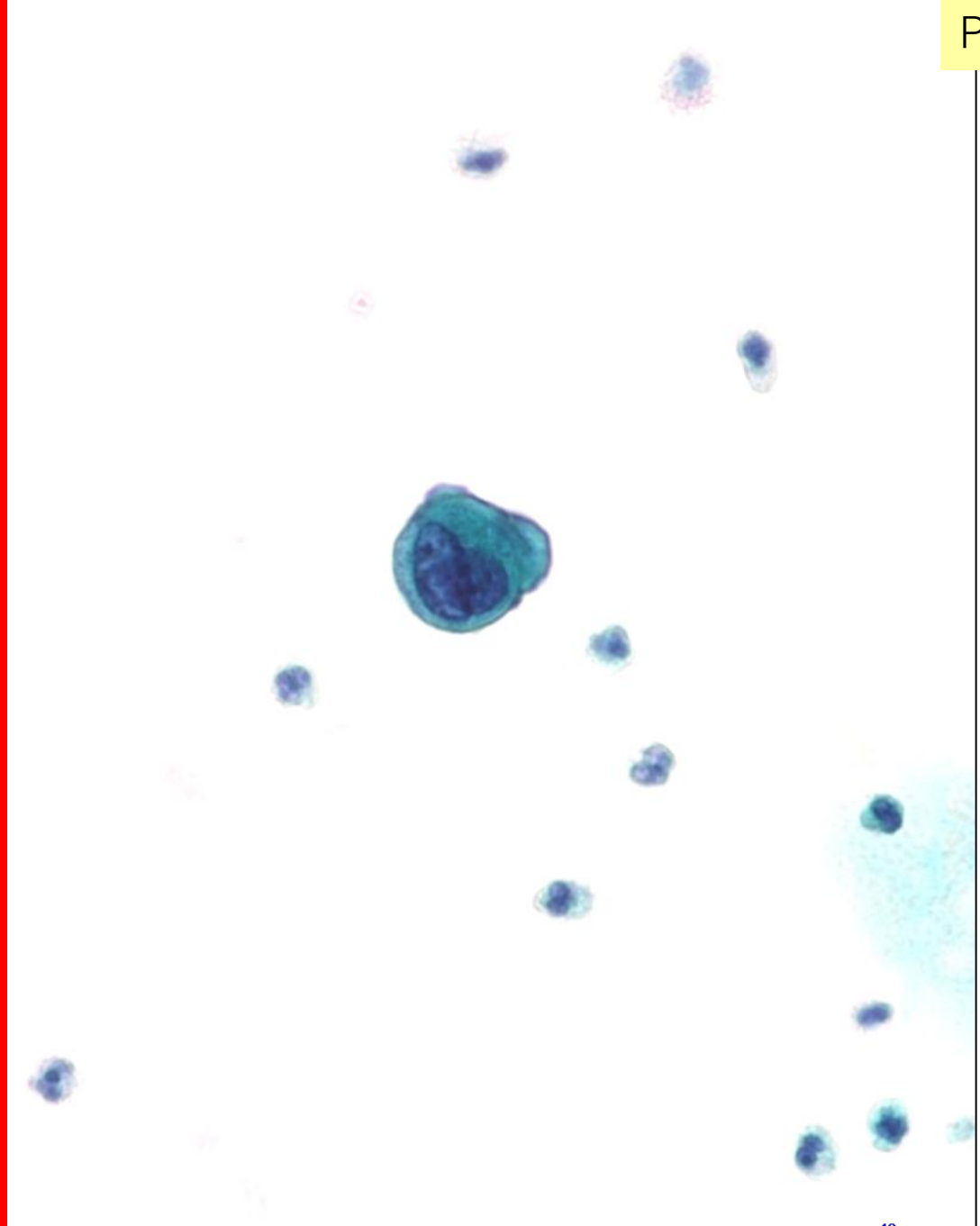
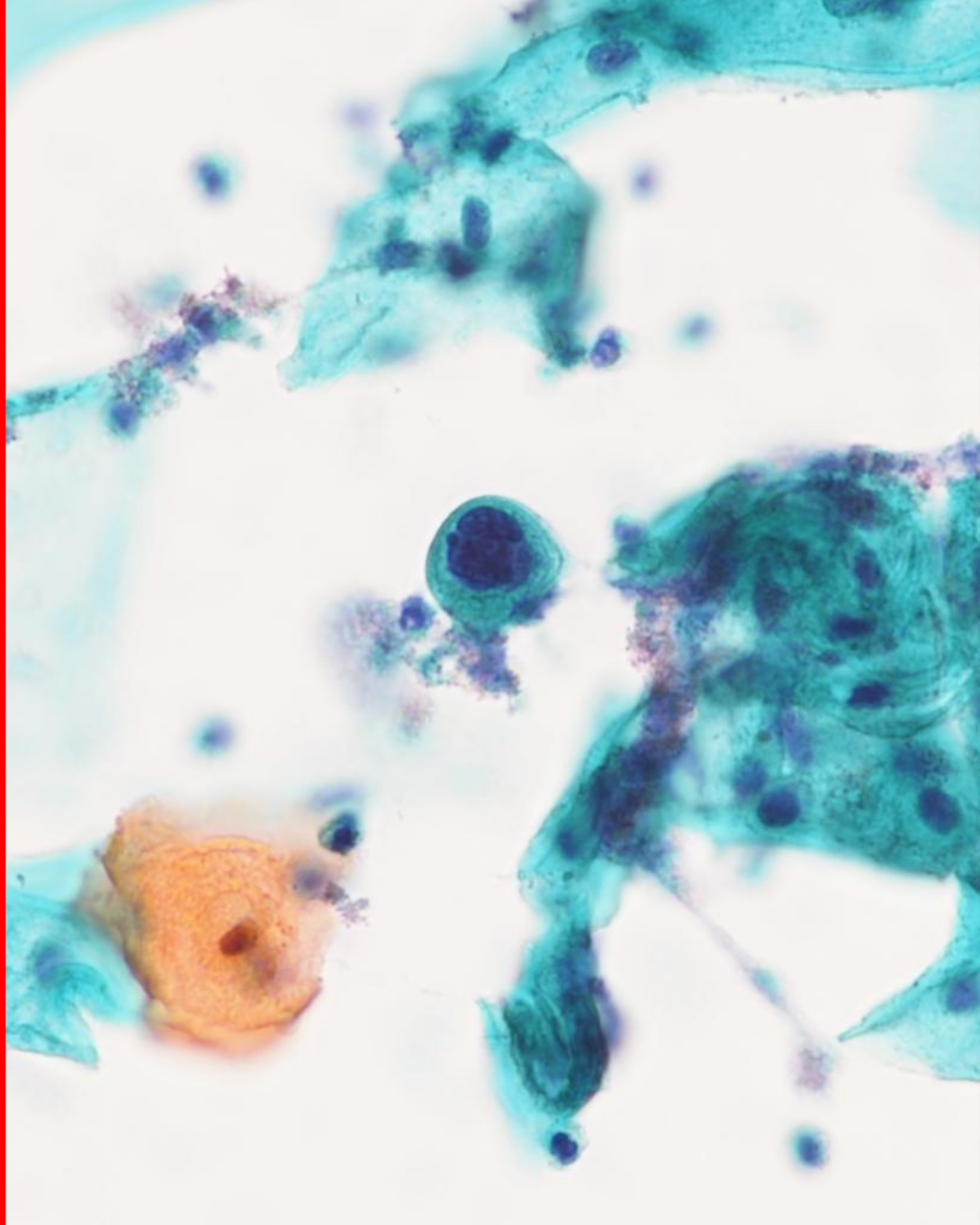
多くの炎症性背景に扁平上皮細胞が散見される



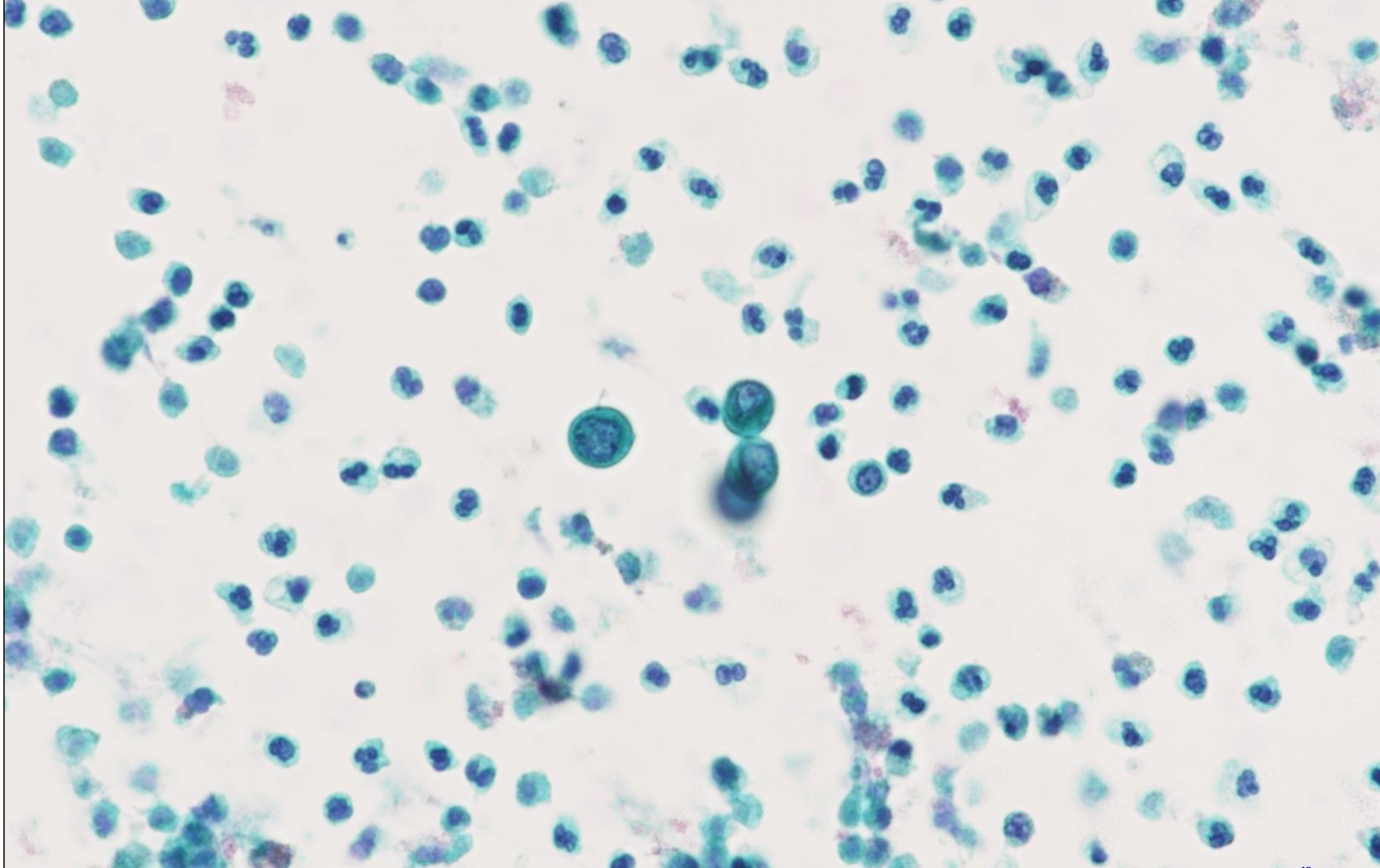
扁平上皮細胞と混在して、小型でN/C比上昇した細胞が認められる



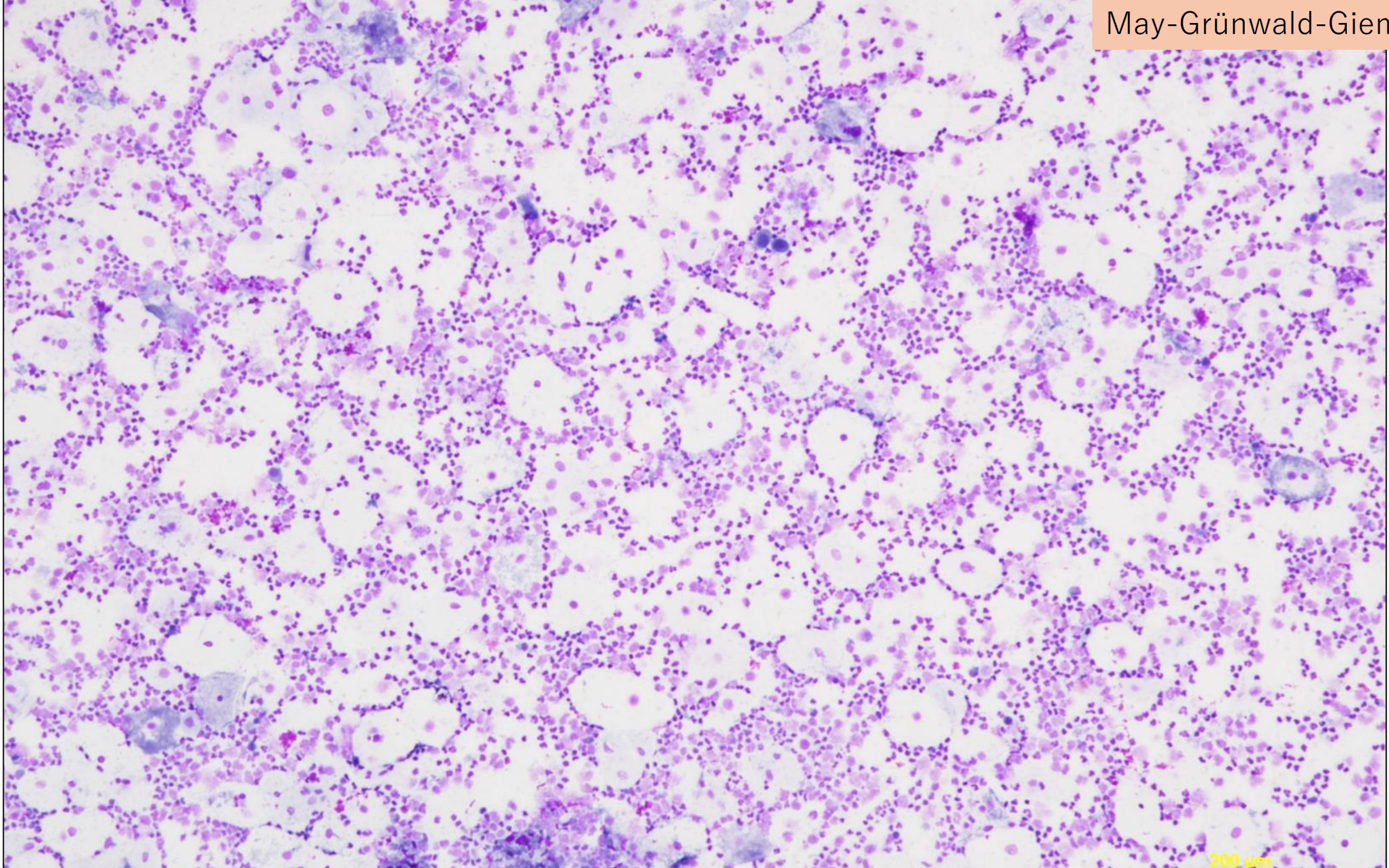
一部では多辺形の細胞質を有し、角化傾向を示している。細胞の核は中心性で、細胞質は濃染傾向を示している



高度に核濃染する細胞も認められる。

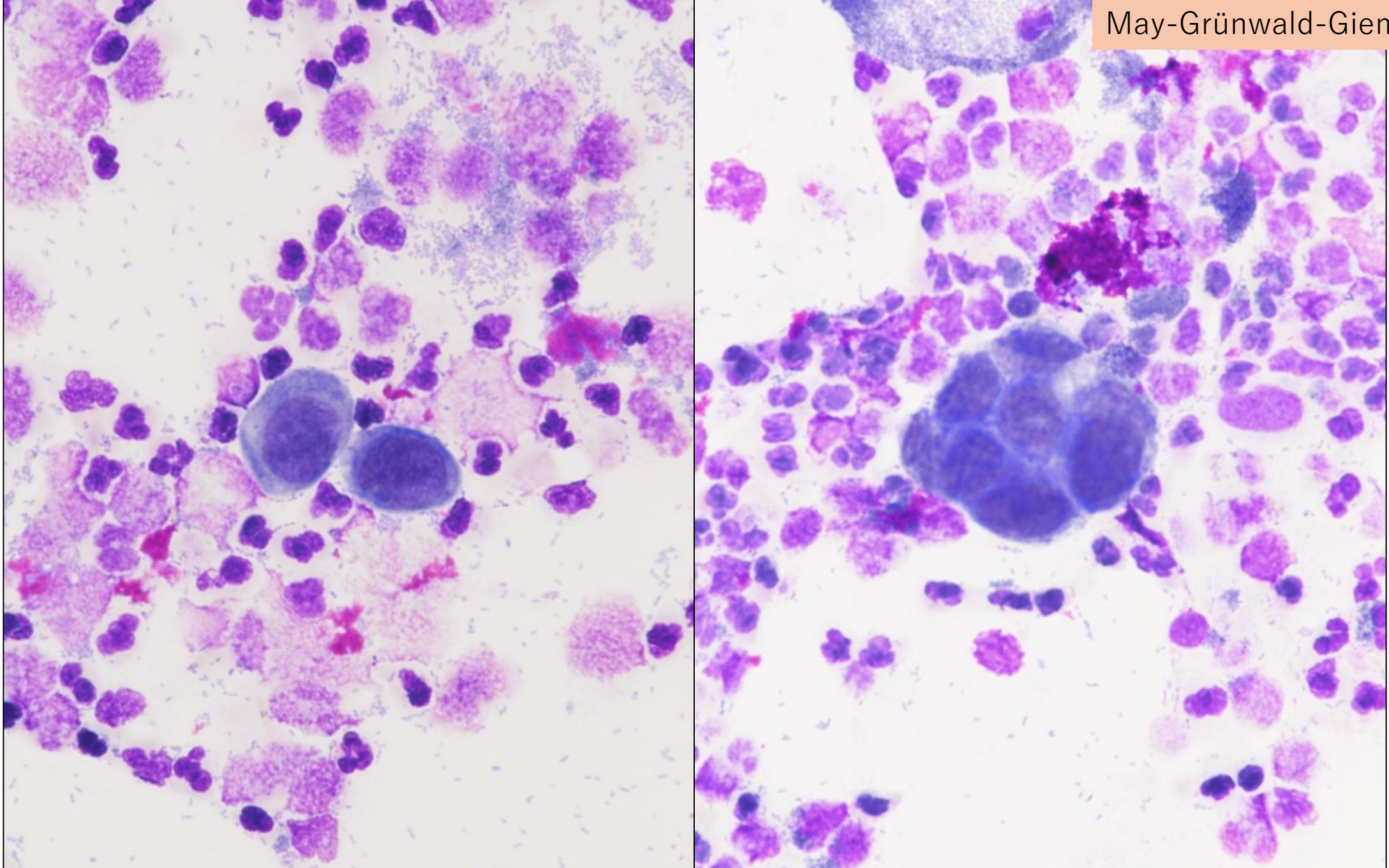


高度にN/C比上昇した小型細胞



200 μ m

多くの炎症性背景に、細菌と扁平上皮細胞が散見される



Pap.染色標本と同様の異型細胞が認められる。細胞質は好塩基性に染色されるが、一部で不均質である。

病例⑤ 泌尿器

選択肢

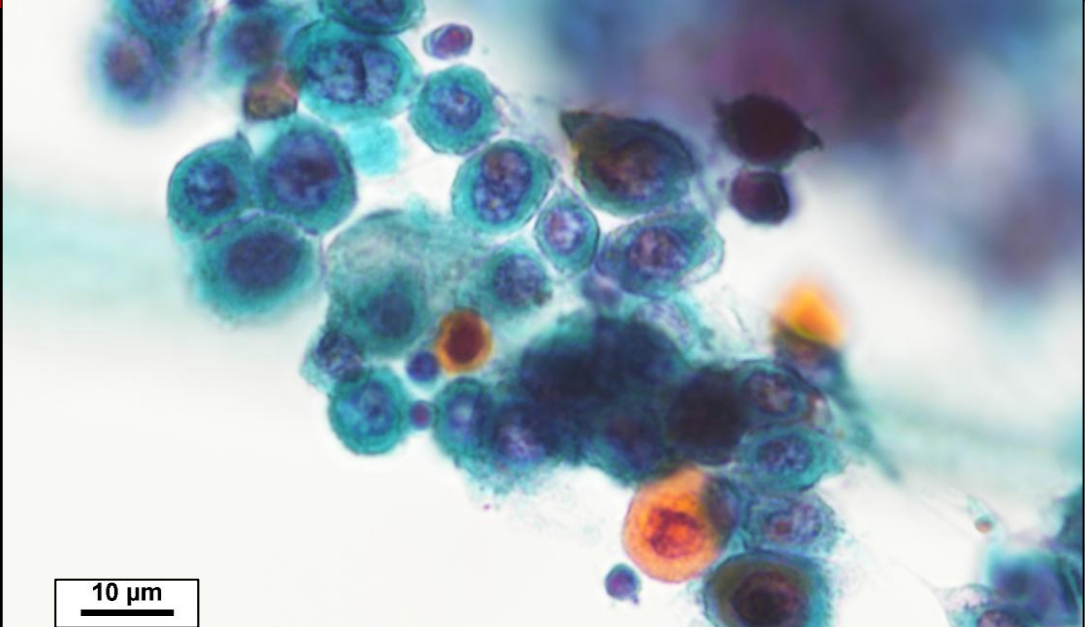
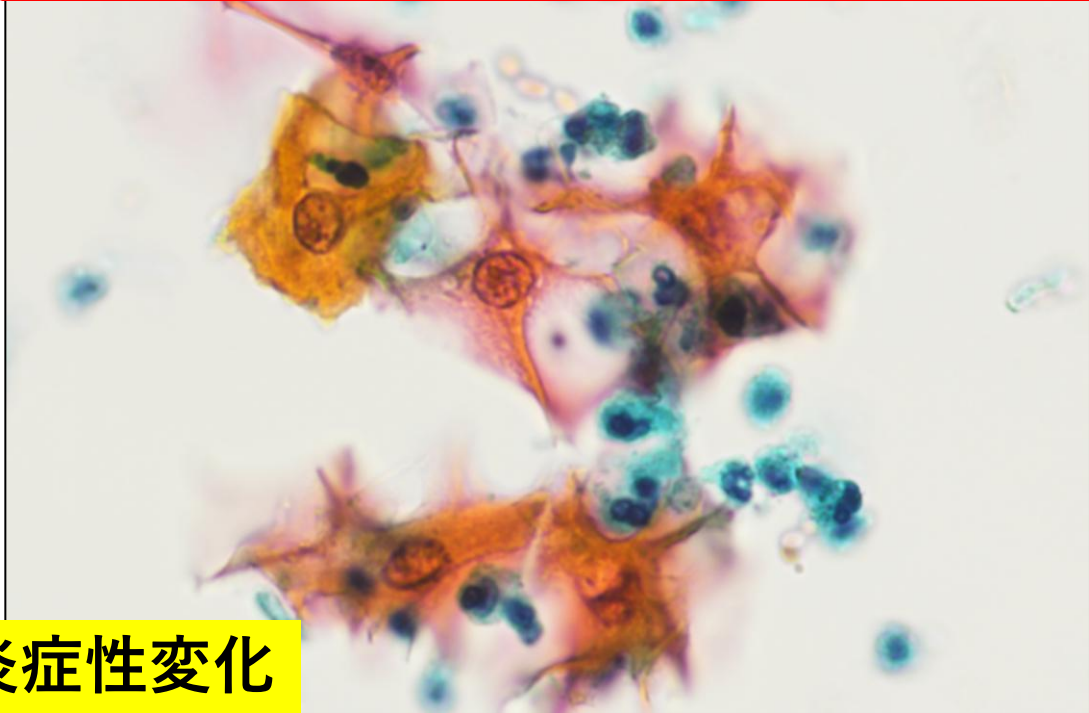
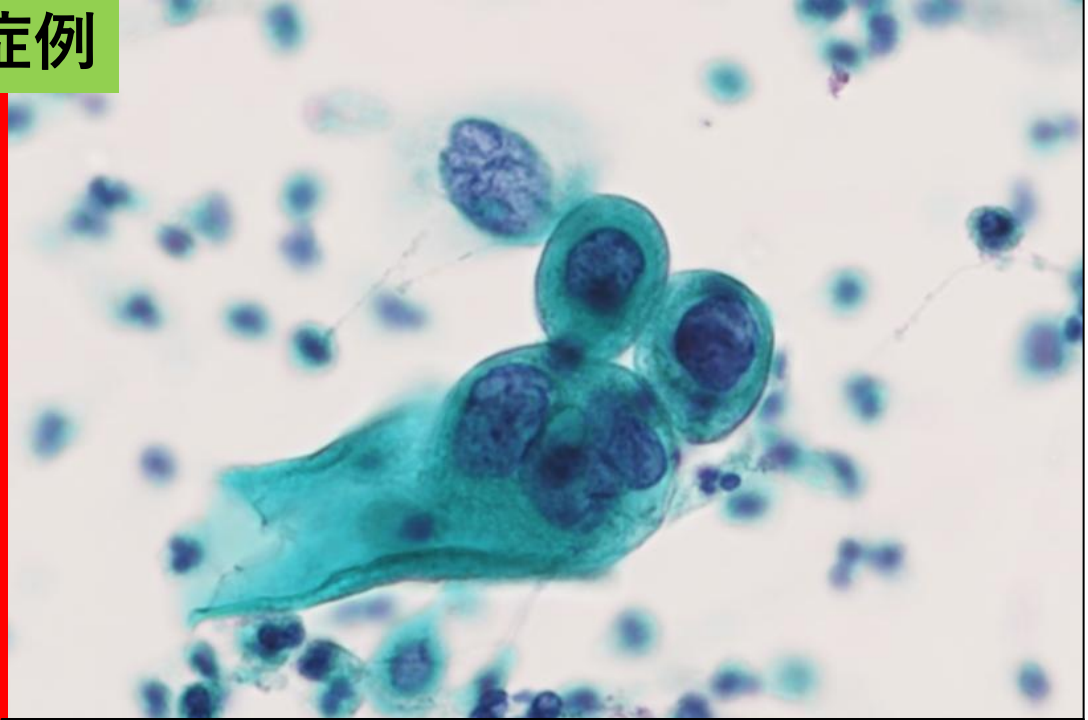
1. 炎症性変化
2. 子宮頸部扁平上皮内病変
3. 高異型度尿路上皮癌

細胞判定

判定：Class III Atypical cells

- 好中球を主体とした炎症性背景にbacteriaが目立ちます。
- 多くの扁平上皮細胞と混在して、核腫大しN/C比上昇した小型細胞やオレンジG好染する細胞が散見されます。それらの核は中心性で、クロマチン所見から異型扁平上皮細胞が示唆されます。
- 既往（C2405454）でdysplasia判定があることから、膀胱病変のほか、婦人科領域のコンタミネーションを否定できない細胞像です。
- 子宮頸部からのコンタミの場合はCIN2-3が疑われます。婦人科領域の精査もご検討ください。

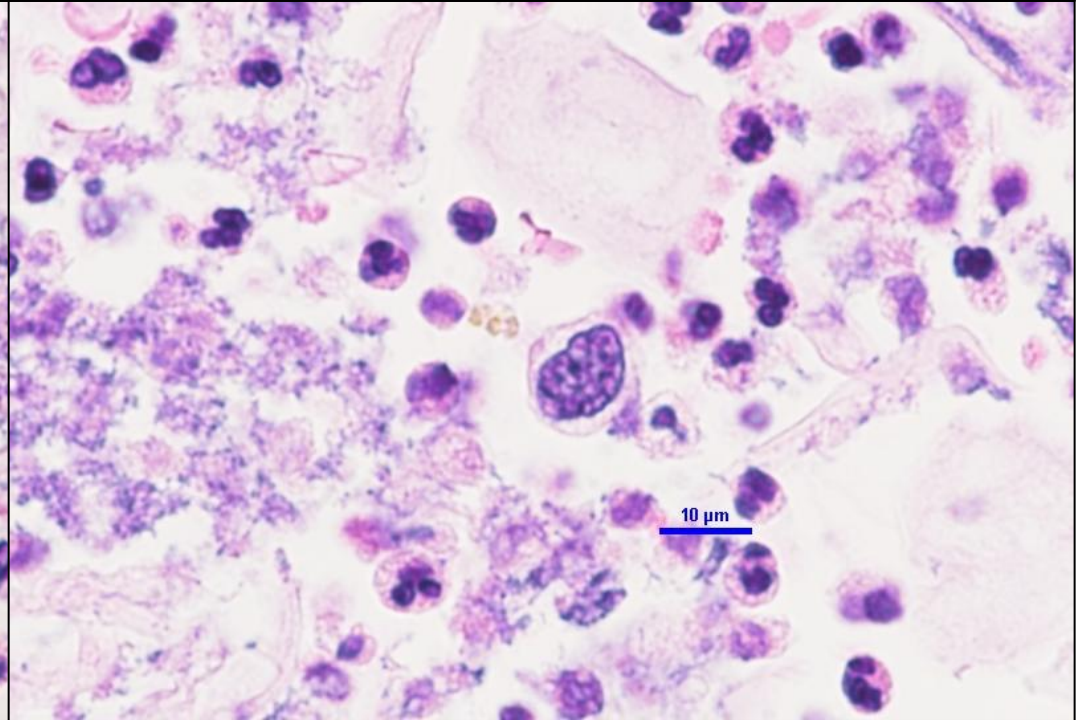
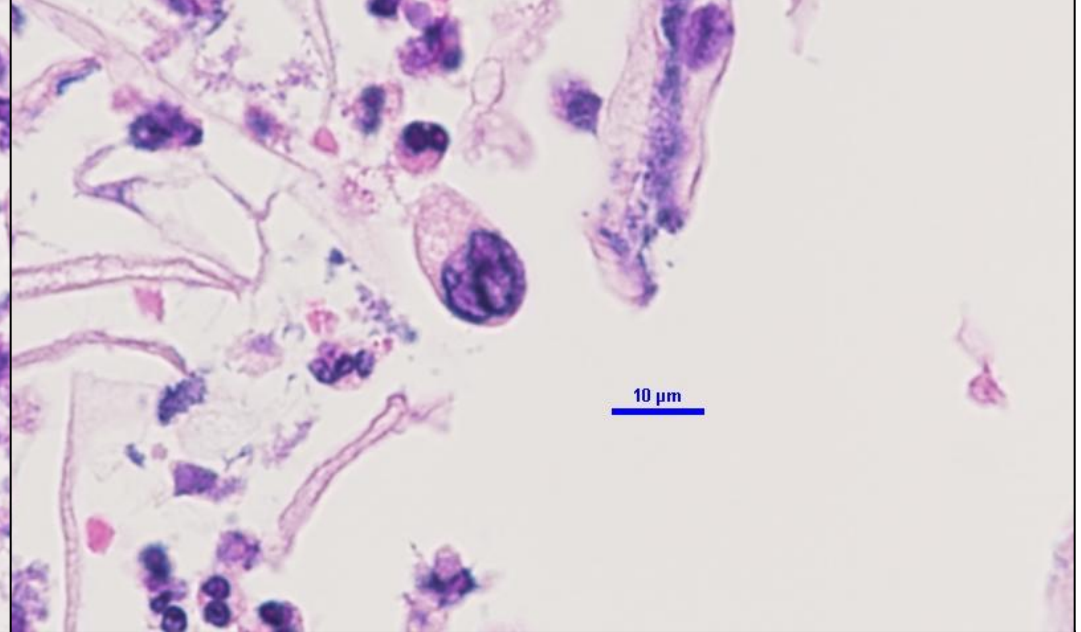
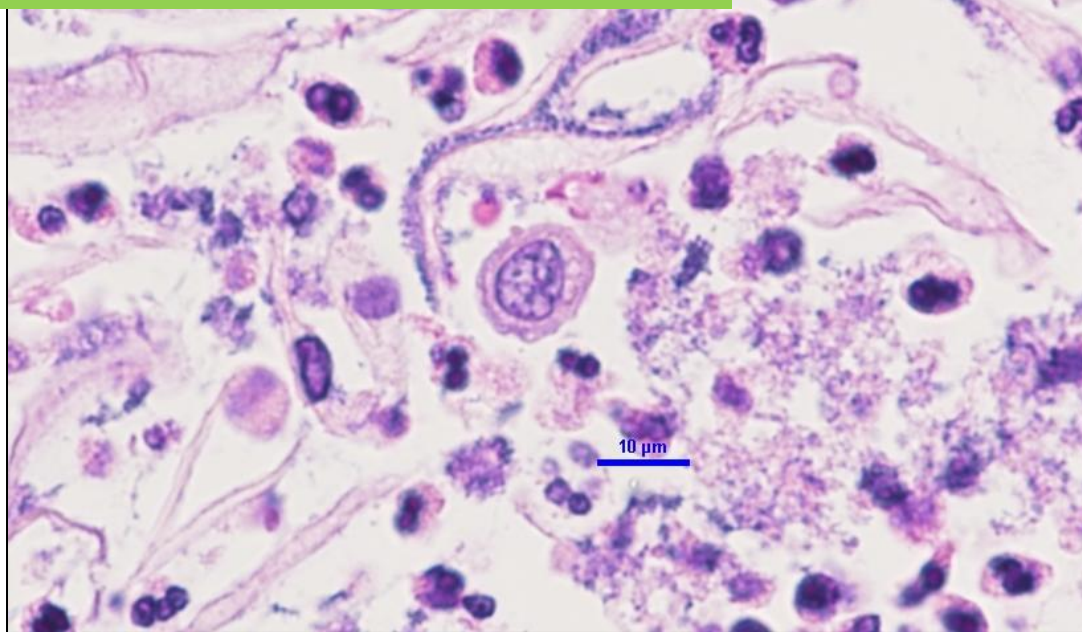
本症例



1. 炎症性変化

3. 高異型度尿路上皮癌

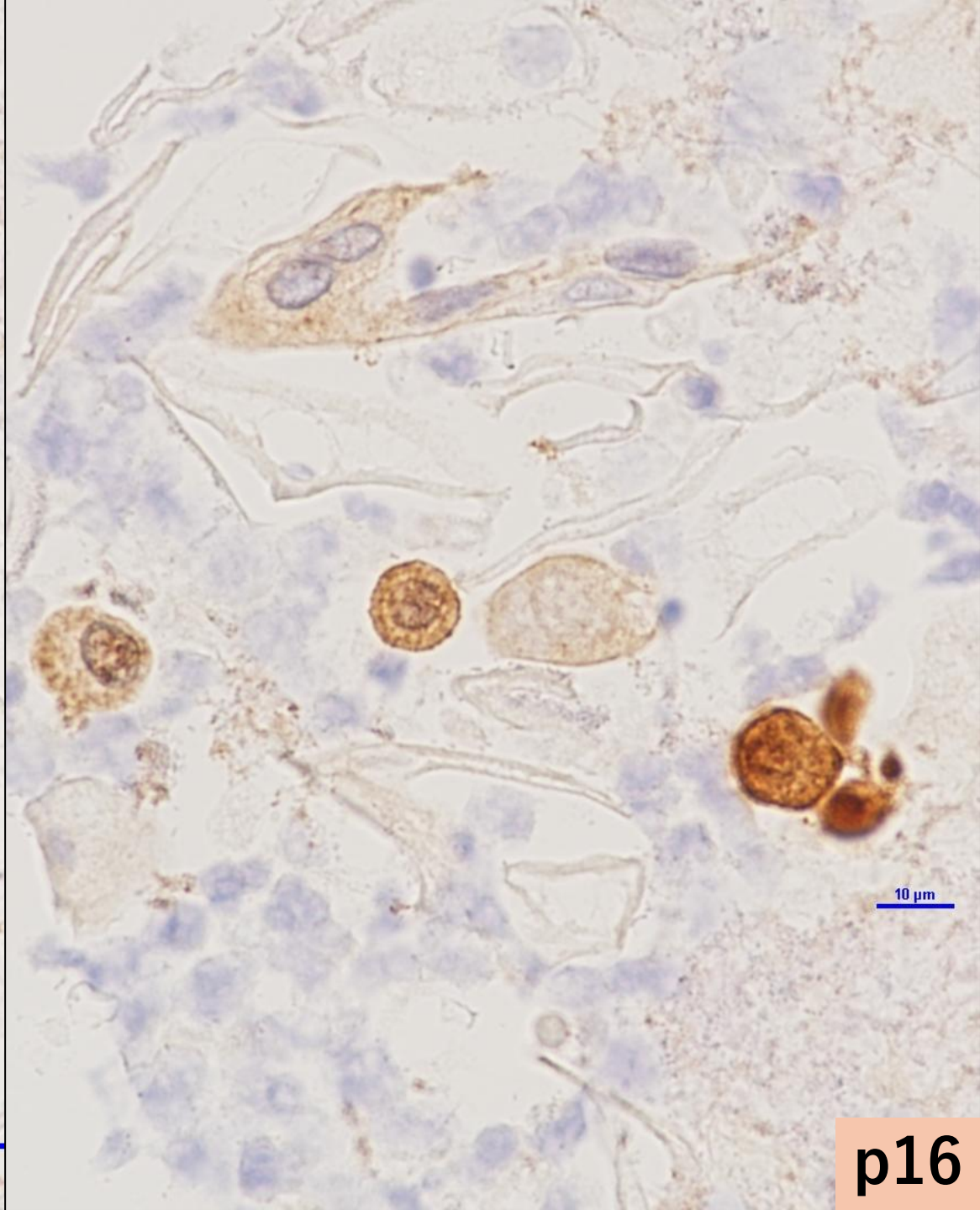
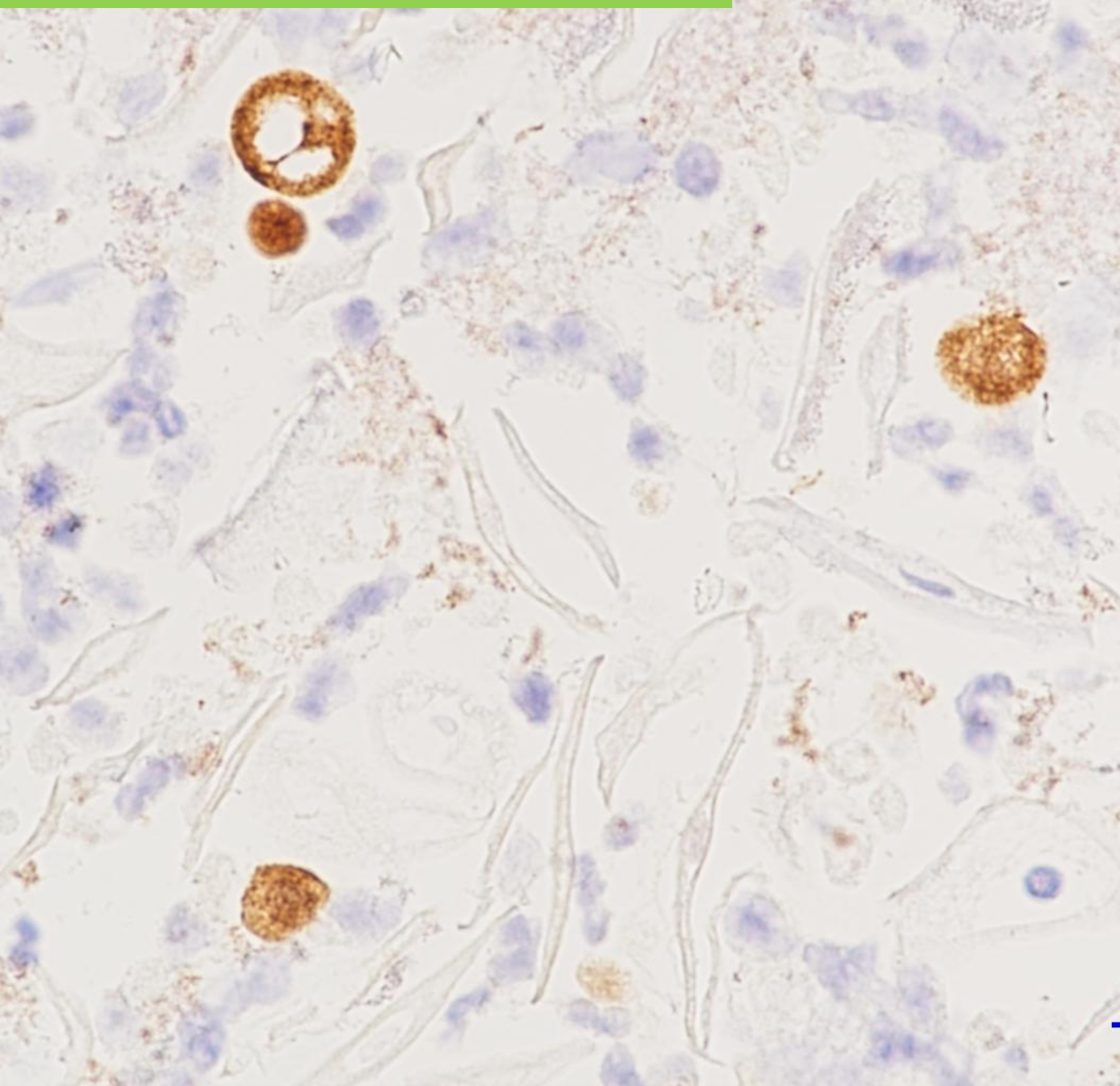
本症例 自然尿 セルブロック標本



本症例 自然尿 セルブロック標本



GATA 3

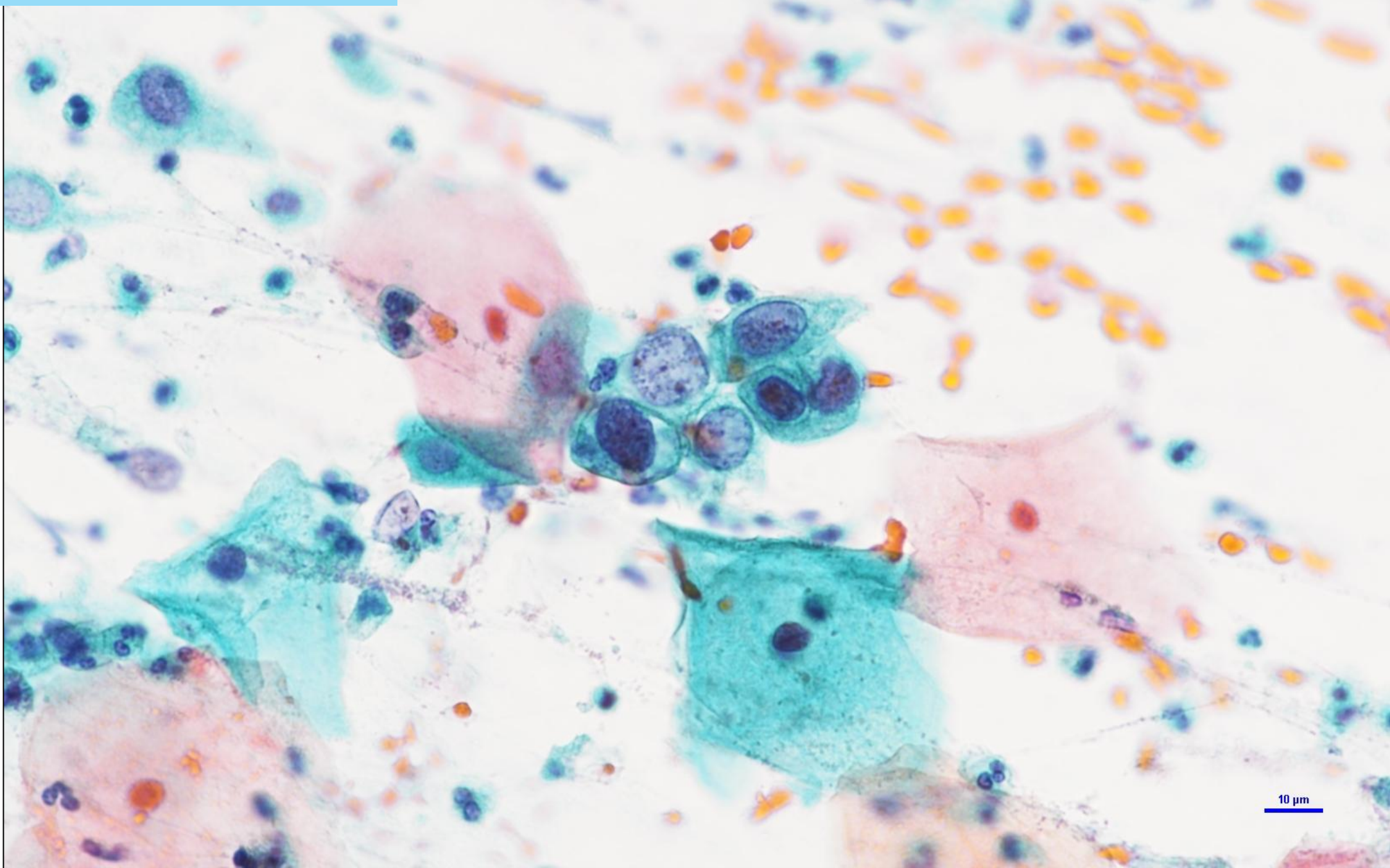


細胞判定一②

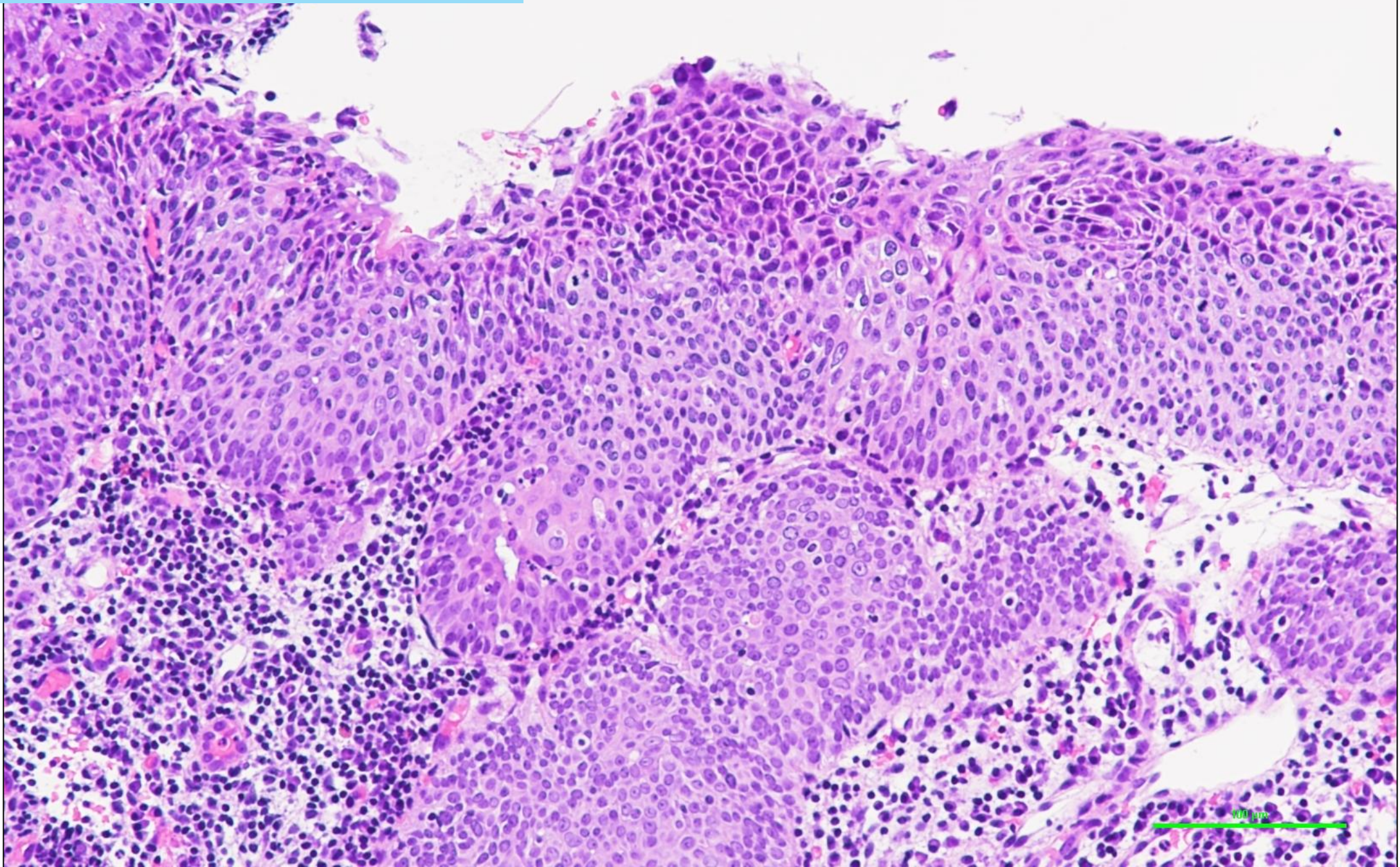
判定：Class III Atypical cells

<追加報告>

- セルブロックでは好中球、細菌塊とともに角化物、異型の乏しい重層扁平上皮が認められる。核腫大と核形不整を伴う異型扁平上皮細胞も少数散見される。GATA3、p40は陰性で、異型扁平上皮細胞はp16陽性である。
- 異型扁平上皮細胞は子宮頸部からのコンタミネーションが考えられる。



202X年 9月 子宮頸部生検：CIN3



組織診断

診断：Portio vaginalis, punch biopsy:

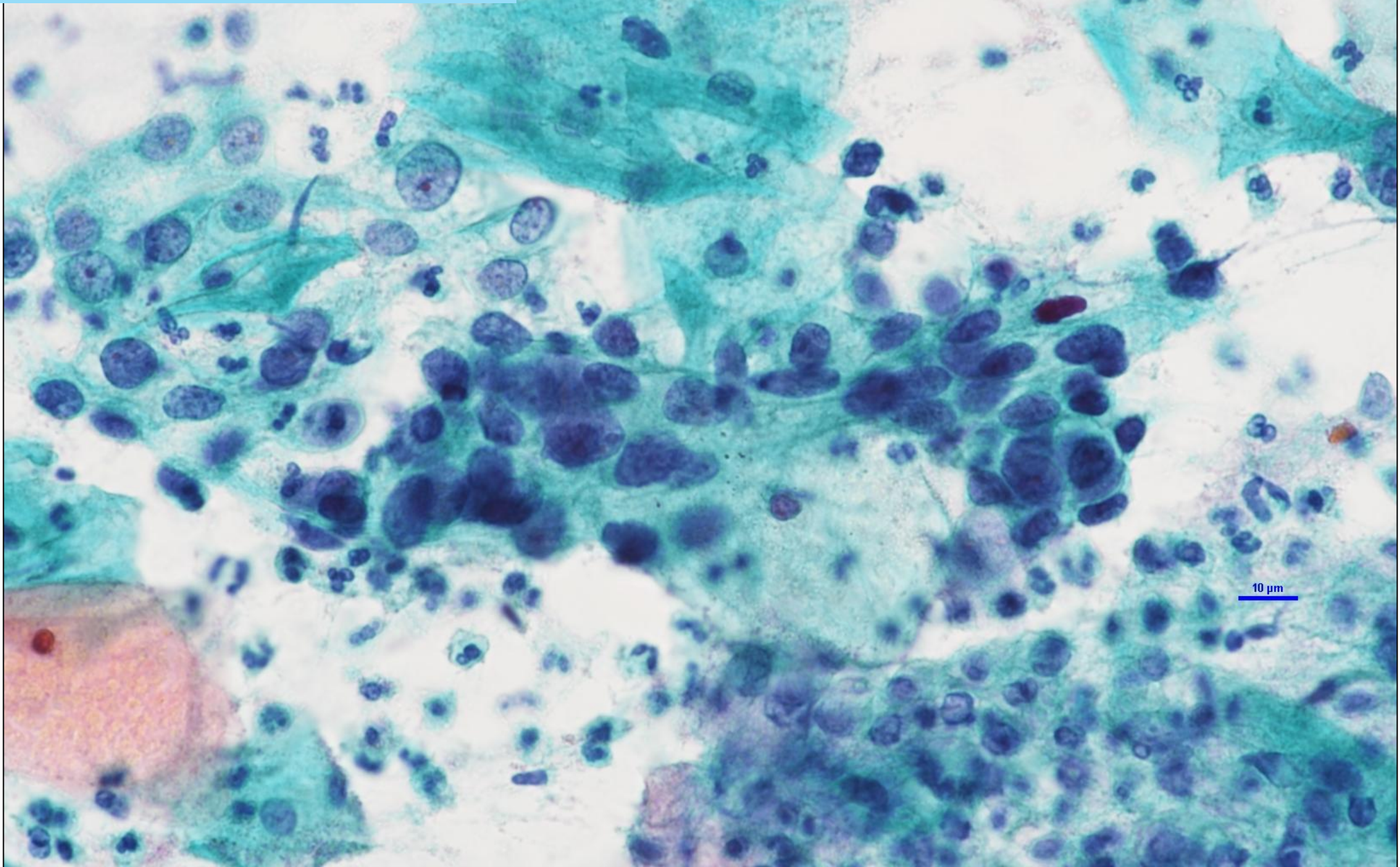
— Severe dysplasia (CIN3, high grade SIL) (#1,2,3).

いずれの組織片も S-C junction の部位から採取され、表面を高度の異形成上皮で覆われている。異形成上皮は2/3以上の厚さにおいて傍基底型細胞が密に増殖している。

個々の細胞はN/C比上昇と核クロマチン凝集を示す比較的均一な異型細胞で、核分裂像も見られる。最表層では層状分化傾向がわずかに維持され、細胞質の好酸性変化や核クロマチン凝集、核形不整や二核細胞が出現し、koilocytosisも認める。

高度異形成（CIN3, high grade SIL）の像である。標本内に間質浸潤像は明らかでない。

既往 202X年 3月 検診：LSIL？



患者 ヒストリー

既往 202X年 3月 検診：LSIL？

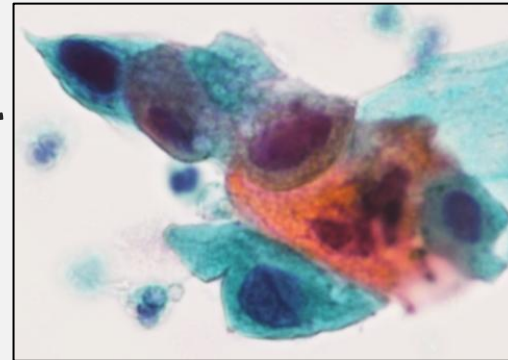
本症例 202X年 7月 自然尿：III Atypical cells

精査 202X年 9月 婦人科：HSIL (severe dysplasia)
同日 子宮頸部生検：CIN3

考察と反省

- ・膀胱癌：若年だが、発生しないわけではないので、慎重な判定が必要である。
- ・残余沈査で作製したセルブロック標本で、子宮頸部由来と判定できた。

- ・LSILはまれに経験するが、HSILは初めて



- ・初回検診はLSILは×
- ・早い段階で精査ができて怪我の功名？

